



ファーストリテイリング、UNHCR 及び在コロンビア日本国大使館による
ベネズエラからの難民・避難民への支援の実施
(ラ・グアヒラ県での合同供与式の開催)

ベネズエラで続く政情不安から、多くのベネズエラ人が国外に避難する状況が起きており、中南米の多くの国で影響が出ています。特に、国境を接しているコロンビアではその影響は甚大です。そこで、在コロンビア日本国大使館は、難民・避難民を受け入れるための環境整備を早急に支援するため、草の根・人間の安全保障無償資金協力により、ラ・グアヒラ県マイカオ市及びリオアチャ市でのプロジェクトを実施してきました。

また、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）とグローバルパートナーシップを結んでいるファーストリテイリングは、世界中の難民や国内避難民、災害被災者などへの支援として服を届けています。2006 年から始まった「全商品リサイクル活動」を通して、これまでにファーストリテイリングのブランドであるユニクロ及びジーユーで回収された 2,500 万点以上の服が 46 の UNHCR 活動拠点国や地域に届けられました。ベネズエラからの難民・移民流入の問題を受け、ファーストリテイリングは、コロンビア現地での服の寄贈を計画してきました。

10 月 30 日、ファーストリテイリングと在コロンビア日本国大使館は、UNHCR のサポートを得て、ラ・グアヒラ県において、服の寄贈と草の根・人間の安全保障無償資金協力のプロジェクト完了の「合同供与式」を開催しました。

ファーストリテイリングからは新田幸弘グループ執行役員、在コロンビア日本国大使館からは森下敬一郎大使、UNHCR コロンビア事務所からはジョセフ・メルクス事務所長、入山由紀子副所長が出席しました。



マイカオ市難民移民支援センターにおける
合同供与式



マイカオ市難民移民支援センターにおける
ファーストリテイリングによる服の寄贈

同県マイカオ市では、「マイカオ市難民移民支援センター」において合同供与式を開催しました。同センター（団体名：パストラル・ソシアル・リオアチャ事務局）に対しては、UNHCR は一時滞在者用の宿泊施設の増設、日本国大使館は寝具、調理器具、簡易診療キットの供与やトイレ等の整備に対する支援、ファーストリテイリングは服の寄贈を行いました。



記念プレートの除幕



森下駐コロンビア日本国大使と
服を受け取った子供たち

コロンビア政府を代表して合同供与式に出席したホルヘ・トレス外務省国際協力局調整官はこれらの支援に対し「心理社会的問題、食料安全保障、人道援助の包括的な支援を確実に向上させることは間違いありません。日本のプロジェクトである草の根・人間の安全保障無償資金協力は、国際社会及び中央政府、市民社会の連携した取り組みによる成果の証明です。」と述べました。

また、森下敬一郎大使は UNHCR との偉大な協働に感謝の意を表しつつ「我々は迅速で適時・適切な協力スキームである草の根・人間の安全保障無償資金協力の強みを活用し、ベネズエラ難民・避難民、そしてベネズエラからの移民問題に影響を受けるコロンビア人への支援向上を目的としたプロジェクトを実施してきました。このような移民問題の支援に貢献でき非常に嬉しく思います。」と今回の支援の意義を強調しました。

また、新田幸弘執行役員は「グローバル企業として、ファーストリテイリングと関わる全てのコミュニティにポジティブな影響を与えられるよう服のチカラを活用していきたいと考えています。ユニクロやジーユーの製品が、難民・避難民の方がより心地よい生活を送れる支援になることを望んでいます。全ての人が安全で幸せで健康的な生活を送る権利があると信じています。」と述べました。

加えて、ファーストリテイリングは同センターにてベネズエラ難民・移民一人一人に服を届けました。



マイカオ市難民移民支援センターにおけるファーストリテイリングによる服の寄贈

続いて、リオアチャ市では、「リオアチャ市ヌエストラ・セニョーラ・デ・ロス・レメディオス病院」において合同供与式を開催しました。同病院に対しては、UNHCR は小児用ベッド、輸液ポンプ、マルチパラメータモニター、日本国大使館は手術室用医療器具一式の供与を、ファーストリテイリングは服の寄贈を行いました。



ヌエストラ・セニョーラ・デ・ロス・レメディオス病院における合同供与式



手術室でテープカットを行う森下大使

合同供与式に出席したジェニー・ロンドニョ・コロンビア外務省国境局専門官は「国際協力はコロンビアの様々な分野を支援してきました。ベネズエラからの人道的危機に対する中央政府の取り組みを継続的に支援するため、これらの国際社会による貢献が必要とされています。」と述べました。

また、ジョセフ・メルクス UNHCR コロンビア事務所代表は「コロンビア政府と人々がベネズエラ人を寛大に受け入れる姿勢を、また、日本とコロンビアの関係を誇りに思います。今我々が日本大使館から新たに供与された新しい手術室で見たものこそ、日本とコロンビアの深い関係を物語っていると思うのです。」と述べました。



リオアチャ市ヌエストラ・セニョーラ・デ・ロス・レメディオス病院におけるファーストリテイリングによる服の寄贈



「マイカオ市難民移民支援センター」と同様に、ファーストリテイリングは病院に集まっているベネズエラからの難民及びコロンビア人に直接服を配りました。

服を受け取った赤ちゃんを連れた女性は「私はベネズエラからコロンビアに来て2年近くになるのですが、このような服の寄贈を受けたのは初めてです。今日は具合が悪くたまたま病院にきたのですが、このように私と子どもに服をいただけて本当に感謝します。」と述べました。

今回のラ・グアヒラ県訪問の機会に、ファーストリテイリングは、リオアチャ市内のベネズエラ難民・移民を受け入れているコロンビア政府家族福祉庁リオアチャ事務所と、老人ホームにおいても、服の寄贈を行いました。



家族福祉庁リオアチャ事務所におけるファーストリテイリングによる服の寄贈



老人ホームにおけるファーストリテイリングによる服の寄贈

ファーストリテイリングは、11月1日にはノルテ・デ・サンタンデール県ククタ市にある「ククタ市移民支援センター」などにおいても服の寄贈を行いました。このセンターに対しては、日本国大使館も草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じた支援を実施しており、11月7日に供与式を開催することとしています。

ベネズエラからの大量の難民・移民流入問題にあたり、今年ファーストリテイリングはUNHCRを通し計9万点の服をコロンビアで困難な環境にある人々に届けます。この服の寄贈にあたり、新田幸弘執行役員は「我々は今後もこのプログラムを続け、拡大していけると信じています。そして、ここにいる人々の平和と幸福を祈ります。」と語りました。

影響が拡大するベネズエラからの難民・移民流入に関し、日本国大使館はUNHCRをはじめとする国連機関やコロンビア政府等との連携を図りながら、必要とされる人道的な支援を引き続き実施していきたいと考えています。

平成30年11月2日